

開催地名：愛媛県今治市	
開催日時	令和3年11月10日（水） 13:25～15:15
開催場所	今治市立国分小学校 体育館
語り部	仲條富夫 （千葉県旭市）
参加者	国分小学校6年生 33人
開催経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生の防災学習で、写真や動画で震災の被害を学んだが、東日本大震災の体験談、教訓や被災した方の気持ち、復興への願いを感じる事が難しいため、実体験を聞かせてほしい。</li> <li>・実際に被災した方や復興にかかわった方の生の話を聞くことで、震災からの復興を自分のこととしてとらえさせたい。</li> </ul>
内容	<p>(1) 東日本大震災発生前について</p> <p>震災前、私は社会福祉協議会の会長を経験し、お年寄りの面倒を見ていた。震災時は千葉県旭市飯岡にあり、防災訓練も行っていたにも関わらず、私は200メートルほど津波に流されてしまった。なんとか助かることはできたが、その時の反省を込めて、災害伝承10年プロジェクトの語り部を行っている。地元では江戸時代にあった大津波を記録した石碑が立っている。富士山の爆発により火山灰で農作物に被害も出た。そういった災害経験を教訓にして、神社などを高い場所に設置するなど、防災に対する知恵を持っていた地域である。</p> <p>(2) 震災発生時の状況</p> <p>金曜日の午後2時46分、東北で地震が発生した。千葉県旭市飯岡に最初の津波が到達したのはその1時間遅れである。さらに3時間後、高さ7.6メートルの大津波がやってきた。私の家は海岸近くにあり、目の前は堤防だ。だから、津波が来ることもすぐに分かるし、早めの避難を心がけていた。しかし、津波によって流されてしまったのである。災害の怖さは誰よりも理解していたつもりだった。しかし、周りのお年寄りは大丈夫か、などと様子を伺いながら避難したために一歩出遅れてしまった。津波の威力は並外れており、13tある消防車をいとも簡単にひっくり返す。水は簡単に物を流してしまうということを改めて実感した。</p> <p>その後、私は避難所で過ごすことになるのだが、1日に1700人ものボランティアがやってきた。しかし、指揮できる市職員の間人がおらず、ボランティアを勝手に動かすことはできなかったため、多くのボランティアには帰ってもらうしかなかった。</p>

	<p>(3) 震災を経験して得られた教訓</p> <p>みなさんにお伝えしたいのは、命の大切さ。そして、早めの避難に勝るものはなしということ。生死を分けるタイムリミットは72時間である。そのためには、災害による被害をできるだけ少なくする自助・共助・公助の考え方が不可欠だ。その中で私が最も大切だと考えているのは「自助」である。まずは自分の身を自分で守っていただきたい。自分の身を守らなければ、近くで助けを求めている人も助けられない。先生の指示を待たずに、各自がバラバラになって高台へまず逃げるとのこと。公助は必ず来るけれど、行き届くまでには数日かかるもの。だから、生き延びるためには事前に水や食料などの備えをしておくことも重要である。また、普段から地域のコミュニティづくりを行い、地域を良く知る人がいざという時に指揮できる体制を整えておくことよい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
開催地より	<p>自分の命を守ること。これはとても大切な考え方であると感じる。家族の安否確認や誰かを助けに行き行って亡くなってしまうケースはとても多い。だからこそ、まずは一人ひとりが「自助」という意識を持って行動できるよう、子ども達にも指導していきたい。</p>